

## 第4章 五輪後の五輪公園・五輪関連施設の活用

### 第1節 五輪公園

2001年7月、OCAはシドニー五輪公園協会(SOPA)に改組され、五輪公園の活性化へ向け始動した。しかし、シドニー近郊の観光スポットであるダーリング・ハーバーも採算がとれるまでに約12年かかっており、市内から西へ16km離れた五輪公園一帯が活性化するには悲観的な見方も多い。SOPAは困難な道のりに向けてスタートをきったところであり、今後が注目される。

#### 1. 五輪公園について<sup>27</sup>

CBDから西へ16km離れた直径2.5kmのエリア(760ha)。五輪28種目中14種目を開催。

敷地は、国の所有地(Crown Land)であり、州が99年間租借している。

(参考)ミレニアム・パークランド

五輪公園を囲む地域(450ha)で、湿地、森林地、公共レクリエーション用地からなる。パークランドの開発は3段階で行われ、五輪前に第1段階は完了した。

#### 2. 五輪後の公園活用

Summer Fun(2001年1月6日(土)～2001年1月21日(日))

五輪会場でコンサート等のイベントを開催。入場者は延べ25,000人で、採算ラインである1日20,000人を大きく下回った。

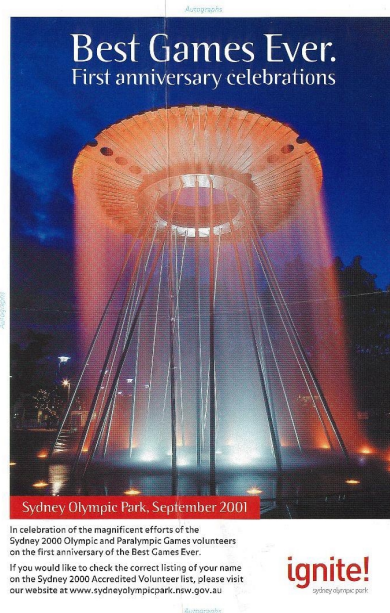
IGNITE(2001年9月15日(土)～2001年9月30日(日)(週末のみ))

五輪1周年を記念して、五輪公園内に聖火台を移転し(写真)、点火。期間中、公園内で各種イベントを開催。聖火台はその後も五輪公園のシンボルとして公園内に設置されている。



五輪公園に移設された聖火台(右奥)(2001年9月15日)

<sup>27</sup> 42頁(事例1)参照



### IGNITE のチラシ

## 3. 五輪公園活用計画

### (1) 五輪跡地活性化計画の経過

2000年12月14日－「シドニー五輪公園－2000年以降の構想」発表<sup>28</sup>

2001年6月－五輪公園活用計画案発表

2002年1月－五輪公園活用計画修正案発表



五輪後のスタジアム・オーストラリア前(五輪記念ポールが450本並ぶ)(©SOPA)

### (2) 五輪公園活用計画案について

2001年6月州政府が発表した五輪公園活用計画の概要は以下のとおり。

- ・ 五輪公園駅周辺にレストランなどが入ったタウン・センター(1.7ha)、事務所ビル、4棟の高層住宅(1,300戸、3,000人居住予定)を建設する。10,000人の雇用創出。ビル等の完成は15年後の予定。
- ・ 商業スペース 110,000 m<sup>2</sup><sup>29</sup>、娯楽スペース 45,000 m<sup>2</sup>、ホテル 24,000 m<sup>2</sup>を確保する。
- ・ 鉄道の増便やイベント時のみ運行している臨時バスの常時運行を検討する。

<sup>28</sup> 61頁参照。

<sup>29</sup> 延床。以下同じ。

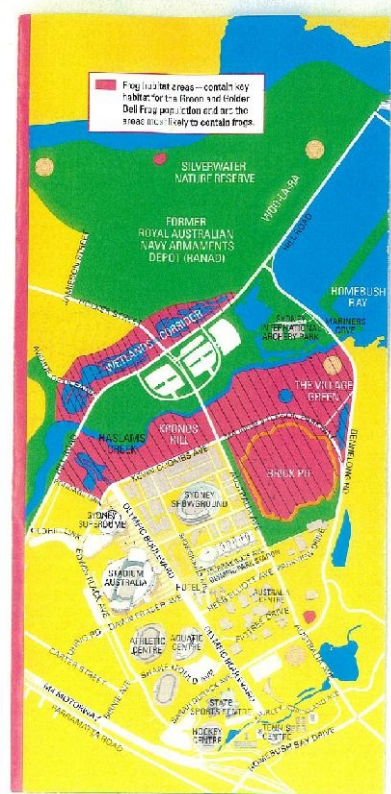
- 元々テニス会場予定地であったが、開発中に希少種のグリーン・ゴールデン・ベル・ガエルの生息地であることがわかったため、残されているれんが採石場(Brick Pit)跡は、環境保護を訴えるエリアとして残す。

### (3) 五輪公園活用計画修正案について

五輪公園駅前に建設するとしていた高層住宅を、五輪公園入口付近に移転。ロイヤル・イースター・ショー時の住宅への騒音問題の解消を図り、かつ、バイセンテニアル公園へ住宅を近づけた。かつ、駅までは徒歩圏内で、住宅からの眺望も優れている。

これにより、五輪公園駅前のタウン・センターは、専らショッピング、映画等の娯楽、事務所等のエリアとなる。

2002年1月29日から2月19日までの閲覧期間を経て、州都市計画省の決定が行われる。



五輪公園内のカエル生息地(斜線部分)(※ 五輪公園内にはグリーン・アンド・ゴールデンベル・フロッグを含め7種類のカエルが生息している。)

## 第2節 選手村

五輪後 5,000 人(2,000 戸(五輪時は 665 戸))が居住する郊外の街とするべく整備が進められている。

### 1. 選手用住宅の活用

五輪後、州政府が 5,000 万ドルで台所、車庫等を整備し、購入者に引渡し。2000年10月時点で選手村内住宅の80%が売却済。売却価格は安くない<sup>30</sup>が、高品質住宅として建設したことが、好調な売れ行きに繋がっているとのこと。

### 2. 周辺環境の整備

既に大手スーパーが開店、小学校は2002年現在生徒数130人、2005年には400人に増加する見込み。さらに、周辺に中層住宅の建築を進めている。

<sup>30</sup> 一般的な販売価格の水準としては、4ベッドルームの一戸建てで60万ドル、2ベッドルームの集合住宅で35万ドル程度。



選手村内の学校予定地(五輪中は健康管理センター)

### 第3節 メディア村(五輪公園から4km南:リドコム)

#### 1. 五輪前

五輪公園から4km南のリドコムにあり、州立病院があった。1997年、OCAが州保健省から、2,500万ドルで購入。

#### 2. 五輪時

海外から6,000人のメディア関係者が滞在。シングルルーム3,000室、ツインルーム1,500室の居住スペース及び24時間営業のレストランやレクリエーション施設を備えていた。

#### 3. 五輪後

2002年1月、オーストラランド社が州政府から9,370万ドルで購入。2003年から2007年までの5年間で、750世帯が入居可能なアパートと一戸建住宅に建て替える予定。

### 第4節 競技施設

#### 1. スタジアム・オーストラリア

五輪後イベント会場として活用されたのは数少なく、イベント招致が課題である。維持費削減のため110,000席のうち30,000席を撤去するとともに、イベントを誘致するためラグビーのみならずクリケット、オージー・ルールズ<sup>31</sup>など円形のグラウンドを使用する競技も開催できるよう現在工事中(8,000万ドル)。

2001年は、ラグビーの国別対抗戦、国内リーグの準決勝、決勝が開催された。

IOC ログ会長は、過去最大規模(110,000席)のスタジアム・オーストラリアが五輪後財政難に陥っていることから、今後の五輪メイン・スタジアムでは規模の縮小を検討する意向を示した<sup>32</sup>。

<sup>31</sup> 豪州独特のラグビーでクリケットと同様、円形のグラウンドで行われる。

<sup>32</sup> 2001. 8. 8 AUS

(参考)

#### スタジアム・オーストラリアの財政難

2000年9月の段階で1億9,600万ドルの負債があったスタジアム・オーストラリアは、2001年もイベントが集まらず、当初年間40試合(1試合平均観客40,000人)のラグビー競技を見込んでいたが、今年の利用予定は国別対抗戦など5試合となった。スタジアム・オーストラリア社は州政府に2,000万ドルの追加融資を依頼したが、州政府は「私企業に対してこれ以上援助する義務はない」と述べており、資金調達は難しい状態となっている。  
(01.3.15 SMH)

## 2. スーパー・ドーム

恒常的なイベントがなく使用回数が少ないことが課題。州政府は、柔道会場にも使用された市内のエンターテインメント・センターのイベント回数を制限して、半ば強制的にスーパー・ドームを利用させることも検討したが、エンターテインメント・センター側の反対もあり撤回した。

テニスのマスターズ・カップ(2001年)が開催されたほか、2002年以降3年間、シドニー交響楽団が年2回の定期公演を行う予定。

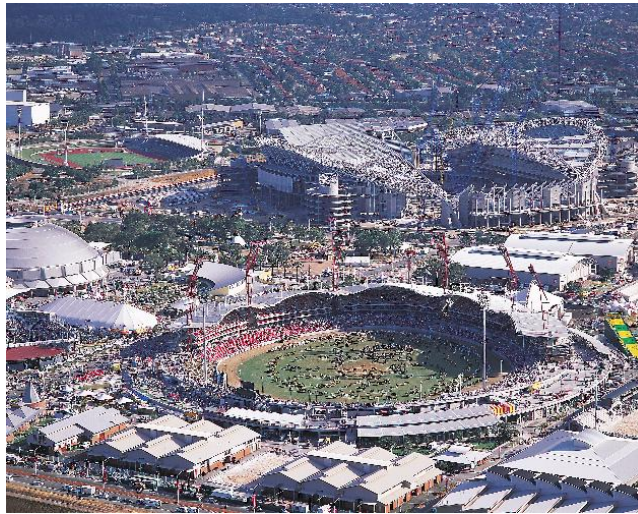
## 3. ショー・グラウンド(野球会場)

1998年以降ロイヤル・イースター・ショー<sup>33</sup>のメイン会場として活用されている。1998年は過去最高の123万人が来場した。

右:1998年ロイヤル・イースター・ショーの会場配置図  
(©OCA)



<sup>33</sup> 畜産品評会のほか丸太切り、子供向けアトラクションなど約700のイベントが2週間に渡り行われる。これまで117年間、シドニー近辺のムーアパークで開催されていた。会場移転経費は3億8,000万ドル。



ロイヤル・イースター・ショーの賑わい(1998年)(©OCA)

#### 4. アクアティック・センター(水泳会場)

建築当初から市民プールとして活用されている。1994年の開設後、4か月で35万人、3年間で400万人が訪れた。ウォーター・スライダー付の家族用プールも備えており、五輪後の利用状況も好調である。



アクアティック・センター(右側傾斜は仮設スタンド)(©OCA)

#### 5. ブラックタウン五輪センター(ソフトボール、野球会場)

ブラックタウン市が管理運営している。NSW州ソフトボール協会本部を設け、ソフトボール用球技場として、また、400mトラックをはじめ、国際アマチュア陸上連盟の基準を満たす陸上競技施設を隣接させ、総合スポーツ施設としての活用を図っている。

#### 6. ダンク・グレイ(競輪会場)

バンクスタウン市が管理運営している。NSW州競輪連盟の練習会場である。五輪後、改装により、バスケットボール、バドミントンその他のスポーツ、展示会等を開催できるようにした。五輪後施設脇に建設するポーカーマシン付パブからの収益をダンク・グレイ

の維持運営費に充てる予定。



ダンク・グレイ(©OCA)

#### 7. レガッタ・センター(カヌー等会場)

五輪後の施設活用が、最も順調に進んでいる例とされる。ペンリス湖開発協会のペンリス湖開発計画<sup>34</sup>により、五輪後、BBQ 施設、ベンチ、休憩所を設置し、スポーツ施設としてのみならず、市民の憩いの場とすべく開発が行われた。また、同センターを会議施設として活用するとともに、センター内に漕艇関連の五輪博物館を設置した。これらにより、月 40,000 人の来場を見込んでいる。

2002 年ゲイ・ゲーム<sup>35</sup>、2005 年・2007 年世界カヌー選手権の予定会場であるほか、トライアスロン、コンサート等に活用されている。

#### 8. ホワイト・ウォーター・スタジアム(カヌー、カヤック会場)

誘致にはペンリス市の強い働きかけがあり、現在も同市により管理・運営されている。人工のスラローム施設としては世界最大規模で、毎秒 14,000 トンの再利用水を使用。カヌー、カヤック選手の練習場として、また、一般利用者への開放を積極的に行うとともに、レストランを併設するなど、総合レクリエーション施設としての活用を図っている。



ホワイト・ウォーター・スタジアム(©OCA)

<sup>34</sup> The Penrith Lakes Scheme

<sup>35</sup> ゲイによるスポーツの世界大会

## 9. シドニー国際射撃場と国際乗馬センター

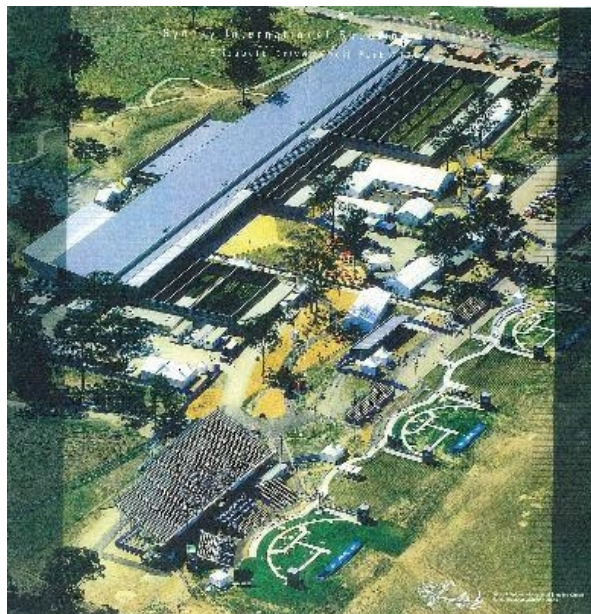
両施設は、当初仮設での施設整備が検討されてきたが、競技団体等からの要請もあり恒久的施設として整備されることとなった。ただし、芝の管理等で、年間数千ドルの経費がかかっている。

シドニー国際射撃場は、セシル公園クレイ射撃クラブが運営している。

国際乗馬センターは、イベントの少なさ(馬術大会(3日間)は2年に1度)が課題。



シドニー国際射撃場(©OCA)



上からの状況(©OCA)



#### 10. ライド・アクアティック・レジャーセンター

ライド市の施設で、民間企業<sup>36</sup>が運営している。競技プール、ウォーター・スライダー付レジャープール、体育館等があり地域のレジャーセンターとして賑わっている。

#### 11. ボンダイ・ビーチ(ビーチバレーボール<sup>37</sup>会場)

五輪競技会場の中で、唯一の仮設競技会場である。

ビーチに五輪施設を建設することに対する地域住民の反対から工事開始が遅れ、五輪後は10月末までに撤去するという期限が設けられた。

撤去は期限どおり完了し、また、ボンダイ・パビリオン(ビーチ脇のセンターで、五輪中はビーチバレー競技大会の本部)が、五輪のため100万ドルをかけて、車椅子用スロープ・身障者用エレベータの設置、衛生設備の改善等改修されたことから、現在では地域のコミュニティセンターとして住民の満足が得られている。

---

<sup>36</sup> RANS Management Group

<sup>37</sup> ビーチバレーボールが五輪競技となったのは、前回の1996年アトランタ五輪からで、当時は内地に会場が設けられた。